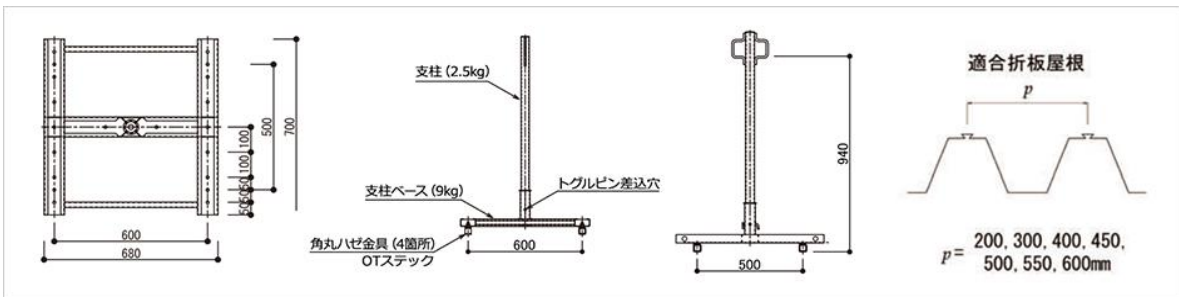


折板屋根親綱支柱

安全帯取り付け設備としての性能と強度を有します。
支柱に単管パイプをつけると、手すり柱としての使用も可能です。



その他仮設材 ①



金属折板屋根材の条件

1. 馳(ハゼ)締めタイプ
 - 馳(ハゼ)ピッチ 400 mm、450 mm、500 mm、550 mm、600 mm
 - 板厚 0.6 mm~1.2 mm
2. 当製品を配置する金属折板屋根材の強度については、当社責任の範囲外となります。強度確認の上、ご使用下さい。
※参考値 - ハゼ金属 1 か所当たり引張許容荷重 250kg

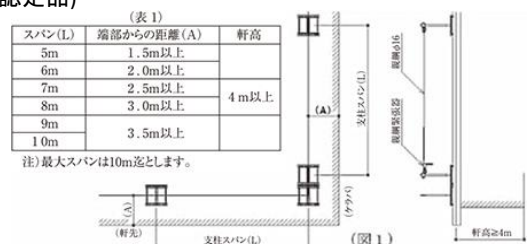
I. 親綱システムの使用基準

屋根材の先端部(切断箇所)が鋭利なため万が一落下した場合、親綱が切れる危険性があるため、親綱が先端部に接触できない距離(A)を設定しております。

- (1) 支柱の取付スパン(L)と軒先及びケラバの各々の端部から距離(A)を(表1)に示します。
- (2) 親綱システムは1スパン1人のみ使用出来ます。
- (3) 安全帯のランヤードは、織ロープ式とし、安全性の確認されたものを用いて、長さを1.7m以内のものをご使用下さい。
- (4) 親綱(ポリエステル製)の外径は16mm以上のものをご使用下さい。(仮設工業会認定品)
- (5) 親綱に緊張を与えるために親綱緊張器をご使用下さい。(仮設工業会認定品)
- (6) 屋根傾斜は10%を限度とします。

II. 防護工(第2種)用支柱の使用基準

- (1) 手摺支柱の間隔(スパン)は2m以内とします。
- (2) 手摺(上さん)及び中さんは単管パイプ(φ48.6)を使用してください。
- (3) 屋根傾斜は10%を限度とします。



● 禁止事項 ●

1. キズ、へこみ及び赤さびによる腐食等、強度の劣化が見込まれる金属折板屋根材には、設置する事はできません。
2. 馳(ハゼ)締め加工が終了していない屋根材には使用できません。
3. 支柱の上部フックに直接安全帯のフックを取付けることは出来ません。親綱ロープに取付けて下さい。
4. 転落等で一度衝撃を受けたシステム部材の再使用は出来ませんので廃棄して下さい。